

作業療法科

科長 仲川 健

はじめに

2024 年は、7 名体制で運用を開始。今年は、グループ内の施設間異動を 2 名実施。4 月には新入職員を 1 名迎え、育児休業者 2 名を含め 12 月末の最終人員は 8 名体制となった。

今年の大きな変革としては、1 月より回復期病棟から地域包括ケア病棟への病床種別・入院料の変更を実施し従来の整形疾患の方だけでなくより多くの疾患の方を対象として作業療法に取り組んだ。また、スタッフ 1 人 1 日あたりの実施単位数を 18 単位以上と目標を設定し取り組みを実施した。昨年同様に外来リハビリの需要が多く、限られた人員の中で体制を組み、受け入れ態勢を整えた。

実績

2024 年 1 月～12 月の年間総単位数は、19,119 単位。月別平均単位数は、1,593 単位であった。(図 1) 入院における OT 処方延べ件数は、104 件。前年と比べ 26 件減少となり、月平均としては 8.6 件の処方数であった。外来リハビリ実施者延べ件数は、3,140 件 6,431 単位。月別平均単位数は、535 単位。前年と比べ件数は 79 件、単位数は 957 単位の増加。(図 2) 入院期間の短縮により外来への早期移行傾向がみられた。年代別内訳では、80 代が 30 例。70 代が 28 例、90 代が 18 例。75 歳以上の後期高齢者が 64 名。(85 歳以上の超高齢者が 37 名)と 75 歳以上は、処方延べ件数の約 2/3 以上を占めていた。(図 3)

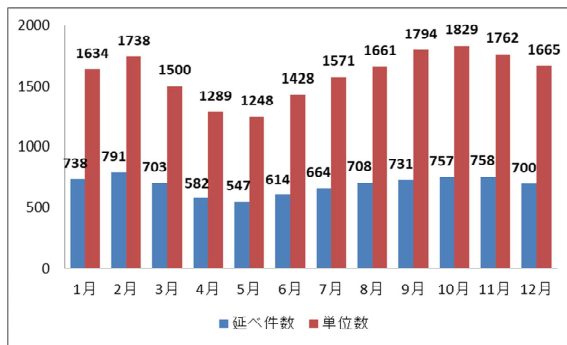
地域包括ケア病棟におけるリハビリ実施者数は、延べ 3,841 名。単位数は 9,488 単位。(図 4) 患者一人あたりの月平均単位数(作業療法のみ)では、2.4 単位であった。

疾患別リハビリでは、運動器リハビリが 89%、廃用症候群が 8%、脳血管リハビリが 3%。(図 5) 処方内訳は、上腕骨近位端骨折、腱板損傷、橈骨遠位端骨折等の上肢疾患が 59 例の 57%。次に大腿骨頸部骨折・転子部骨折等の下肢疾患が 16 例の 15%。腰椎圧迫骨折や脊椎・骨盤骨折等が 7 例の 7%であった。(図 6)

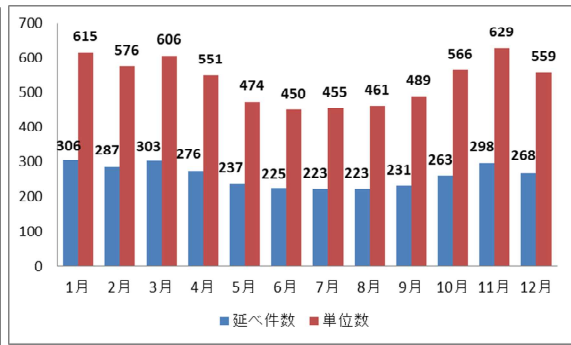
2025 年方針

整形分野のリハビリだけでなく様々な疾患に対応できるよう質の向上、患者サービスの向上を目指しスタッフの育成を実施していく。

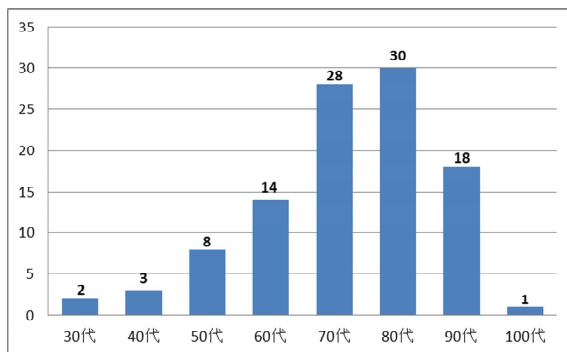
また、地域包括ケア病棟の役割である在宅・生活復帰支援を丁寧に行い、急性期からの受け入れも円滑に行えるよう取り組んでいく。在宅生活を送られている方の外来リハビリの需要は継続して高く、積極的なリハビリの提供にも取り組んでいく。



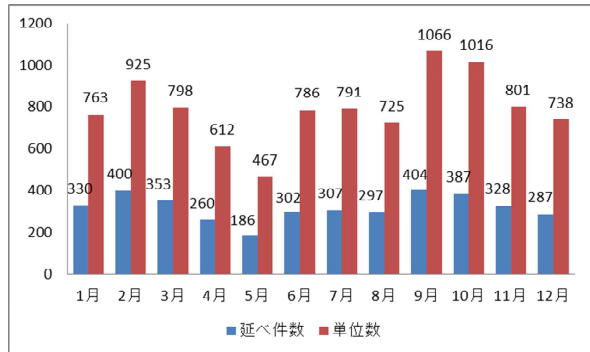
(図 1) 月別実施単位数



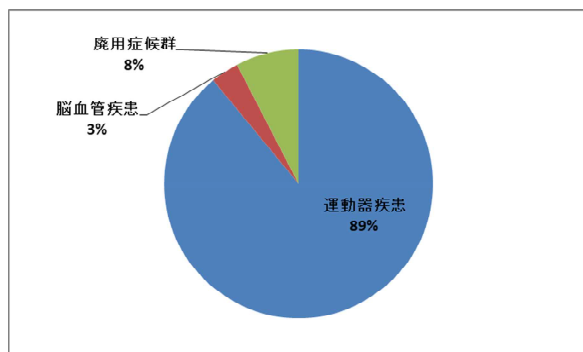
(図 2) 外来実施者数と単位数



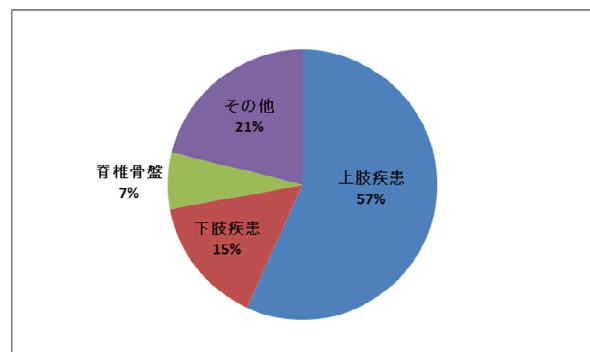
(図 3) 年代別



(図 4) 地域包括ケア病棟実施者数と単位数



(図 5) 疾患別リハビリ



(図 6) 処方内訳